

## イザヤ書33章14節 「焼き尽くす火なる神」

### 1A 「火」なる神

#### 1B イザヤ書と聖書全体

#### 2B 愛と光との関係

### 2A 火のもたらす効果

#### 1B 精錬

#### 2B 滅ぼす

### 3A イエス・キリストとの関係

## 本文

イザヤ書 33 章 14 節が今朝の本文です。午後には、33 章から 35 章まで読みます。ついに、イザヤ書の預言の前半部分を完読します。それでは 33 章 14 節を見ましょう。「**罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者は恐怖に取りつかれる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられよう。私たちのうち、だれがとこしえに燃える炉に耐えられよう。」**」

この箇所の背景をお話したいと思います。エルサレムは今、アッシリヤ軍によって包囲されています。その数は 18 万 5 千人です。そして、アッシリヤの王セナケリブから遣わされたラブ・シャケが、脅します。「我々は、主なる神に拠り頼むとお前たちは言っているが、そんな言葉を信じてはいけない。お前たちはエジプトに頼んでいながら、何の助けにもならなかったではないか。今、主がこの国を滅ぼすと言っておられるのだ。」そんな脅しを聞いていて、ヒゼキヤが人をイザヤに遣わしました。「きょうは、苦難と、懲らしめと、侮辱の日です。子どもが生まれようとするのに、それを産み出す力がないのです。(37:3)」すると、主はイザヤに言葉を与えられました。その言葉を恐れるな。わたしは、彼をここから引き上げさせ、その国で彼を剣で殺す、と言われました。事実、アッシリヤの王セナケリブは、エジプトの南にあるエチオピヤが攻めてきたということで、そちらの戦いに行きます。すると、彼は手紙をヒゼキヤに送ります。「これで、お前が救い出されるのだと思うな。我々が征服した国々の神が、彼らを救い出したというのか？エルサレムの神が救い出すのか。」ということを行いました。ヒゼキヤは全く打ちひしがれて、その手紙を神殿の前に差し出しました。すると、イザヤに主からの言葉がありました。主がアッシリヤを引きかえらせると励ましました。

そして、翌朝、これから今にでもエルサレムの城に侵入するのではないかと思いながら、城壁の外を人々が見たら、異様な静けさがありました。そこには、おびただしい死体が転がっていました。その夜に主からの使い、天使がやって来て、その 18 万 5 千人の軍隊を一気に打ち滅ぼしたからです。それを見た人々は、必ずしも拍手喝さいではありませんでした。そこに降り注がれた火のような神の裁きに対して、エルサレムにいる住民には、「**私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えら**

れよう。」と叫んだのです。主が火のようにご臨在されて、これらの敵を打ち滅ぼしたのですが、彼ら自身の中にも、アッシリヤ軍を主が滅ぼされたその聖さによって、自分も滅ぼされてしまうと感じたのでした。

同じようなことが、イスラエルが荒野の旅をしていた時のコラの反逆の時にもありました。コラとその共謀者たちの天幕の下の地面が割れて、彼らが生きたまま陰府に下ったことを目撃して、彼らの回りにいた民は、叫び声を上げて逃げました。「地が私たちをも、のみこんでしまうかもしれない。」と思ったからです(民数 16:34)

## 1A 「火」なる神

### 1B イザヤ書と聖書全体

私たちは今年初めに辺り、主なる神のご臨在を火として意識する時を過ごしたいと思います。主が火として現れたのは、イザヤ書において彼が主から召命を受けた時でした。天の御座の情景を見て、彼は、「災いだ。私は、もうだめだ。」と言いましたが、セラフィムの一人が彼のところに近づき、祭壇から取ってきた燃えさかる炭を持って、彼の口に触れました。そして言いました。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。(6:7)」そしてイザヤ書の最後にも、「実に、主は火をもってさばき、その剣ですべての肉なる者をさばく。(66:16)」

そして聖書全体においても、私たちの神が火によって臨在される場面が多くあります。アダムとエバが、エデンの園から追放される時に、神は、いのちの木への道を守るために、ケルビムの輪を描いて回る炎の剣を置かれました(創世 3:24)。それから、主がエジプトから脱出させたイスラエルの民に、シナイ山の上に火をもって現れました。「シナイ山は全山が煙っていた。それは主が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山が激しく震えた。(出エジプト 19:18)」

これは、旧約時代のことだけではありません。バプテスマのヨハネは、主が来られる時は、「聖霊と火のバプテスマ」によると話しました。「マタイ 3:11-12 その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」そして使徒の働きで、二階の間で祈っていた時に聖霊が下った時に、「炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。(使徒 2:3)」とあります。そして黙示録で、使徒ヨハネの前に現れた方は、栄光に輝くイエス様でした。「その目は燃える炎のようであった。(1:14)」とあります。

### 2B 愛と光との関係

聖書の中には、数多くの神のご性質が書かれています。そして、神がどのような方であるのかを形容、比喩によって語られている部分が多くあります。その中でも、「神は、～である。」と神の本

質を描いているもので、代表的なものがあります。それは、三つです。「神は愛です。(1ヨハネ 4:16)」があります。神が愛を持っておられる、とは書いてありません。神は愛であり、愛でないことを神はすることはできません。神は愛だからです。そして、「神は光(1ヨハネ 1:5)」とあります。神が聖い方、罪や不法などの闇を照らす方であることが書かれています。ですから、光でないこと、聖いことをしないことは全くあり得ません。なぜなら、神は光だからです。

そして、ヘブル書 12 章の最後にこう書いてあります。「私たちの神は焼き尽くす火です。(12:29)」神は焼き尽くす火であります。これも同じく、神が火ではないということはありません。神の本質は、愛であり、光であり、そして焼き尽くす火であります。私たちは、この三つは相容れないように見えるかもしれませんが、神が人を愛される時に、この方が焼き尽くす火であるはずがないと思います。いいえ、もしそれを愛と呼ぶならば、それは人の愛かもしれませんが、利己的な愛かもしれませんが、しかし神の愛ではありません。

主が人を愛される時に、そこには火が伴っています。それゆえに、まず情熱があります。その情熱がなければ、主はアダムが罪を犯して以来、あきらめずに人に関わり続けることはなかったでしょう。その情熱がなければ、ご自分の御子を十字架に引き渡すような愛を示されなかったでしょう。一見、厳しいように聞こえる数々の叱責の言葉にも、その背後には情熱のある愛が動機になっています。そして、火であられるからこそ、暖かい愛があります。イスラエルの民は、荒野の旅をする時に、夜には火の柱として彼らの間におられました。そこで光をも与え、また夜になると寒くなる彼らに暖もくございました。人々が悔い改めて、主に従う時は、火から来る暖かさによって、従っていることが分かります。そして神が光、という時も、当然ながら火との関係が強いです。火があるからこそ、光もあります。

## **2A 火のもたらす効果**

そして、その火は天に入る者によっては、清めの火であり、地獄に落とされる者にとっては裁きの火です。同じ火なのですが、ますます神に近づけるものか、あるいは神から引き離されるものとなるのか、その違いが出てきます。

### **1B 精錬**

火のもたらす効果について、不純物を取り除く、精錬するという働きがあります。ダビデは詩篇でこう言いました。「神よ。まことに、あなたは私たちを調べ、銀を精錬するように、私たちを練られました。(66:10)」火によって私たちは主に調べられ、練られます。そしてそれを通過する時は、純粋なものとなり、耐久性のあるものとして出てきます。「1ペテロ 1:7 信仰の試練は、火を通して精錬されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」

神によって練られた人の品性は整えられています。その安定した、揺るがない霊は、何かが起こっても、それによって神の愛を疑うことはありません。パウロが、患難を喜ぶと言ったところを読んでみたいと思います。「ローマ 5:3-5 そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

士師記 13 章に、士師サムソンが生まれる経緯が書かれています。怪力でペリシテ人を倒してうったあのサムソンの両親のことです。そこに主の使いが女に現れます。その子は、主に捧げられたナジル人になると主の使いは告げます。夫マノアに告げたら、マノアは、「私にも現われてください。」と祈ります。すると主が来られました。そして、マノアは動物のいけにえと、穀物の捧げ物を岩の上に捧げました。すると、その祭壇から火が出て、そしてその使いが天に引き上げられたのです。その使いは主ご自身の現れであることにマノアは気づきました。すると、マノアは言ったのです。「私たちは神を見たので、必ず死ぬだろう。」しかし妻は言いました。「士師 13:23 もし私たちが殺そうと思われたのなら、主は私たちの手から、全焼のいけにえと穀物のささげ物をお受けにならなかったでしょう。これらのことをみな、私たちにお示しにならなかったでしょうし、いましがた、こうしたことを私たちにお告げにならなかったでしょう。」

マノアは、祭壇に火が立ち上り、そこから主の使いが上がっていくという衝撃的な出来事があったのを見て、「私たちは死んでしまう」と思いました。しかし、妻は、「私たちのいけにえを受け取られたのですし、これらのことを示されているのですから、私たちが殺すためではないでしょう。」と言っています。主が行なわれていることは同じであっても、その突然の出来事、衝撃的な出来事を前にして、それは主が自分たちを殺すためだと解釈したのか、それとも主が私たちのいけにえを受け入れられたのだと、主が好意をもっておられること、目に留めておられることだと解釈したのです。「主がこのようなことをなさるのだから、受け入れられているに違いない。」という、神への信頼、その愛への信頼がマノアの妻にはあったのです。

そして、私たちは主の御元に引き寄せられる時に、火によって報酬と称賛を受けます。「1コリント 3:11-15 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」主が天から戻って来られます。その時に私たちは引き上げられます。そしてキリストの御座によって、自分の働きが試されます。火によって試されます。残ったものによって、報いを受けます。

## 2B 滅ぼす

しかし、このように清められるという効果の他に、もちろん、「焼き尽くす」という効果もあります。火によって物は滅んでいくものです。この天地、またこの地上で行われたすべての業は、焼き尽くすことを主は語られています。「2ペテロ 3:10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。」そして、死後において、火と硫黄の池の中で苦しむことが聖書の中に書かれています。

## 3A イエス・キリストとの関係

ですから、同じ火なのですが、ある物はさらに清められて、いつまでも残る物となり、またある物は燃え尽くされるのです。それが清められるための火なのか、焼き尽くしてしまう火なのか、すべては自分と主イエス・キリストとの関わりがあるかないかにかかっています。アッシリヤに対して聖なる火によってその軍を燃やし尽くされた時に、エルサレムの中にいる住民で罪人、神を敬わない者たち、形は敬っていても心は遠く離れている者たちは、「**だれが焼き尽くす火に耐えられよう。私たちのうち、だれがとこしえの燃える炉に耐えられよう。**」と叫びます。

しかしその一方で、この同じ出来事によって、他の者たちは主ご自身によって清められ、すばらしい御国の幻が与えられます。「33:15-17 正義を行なう者、まっすぐに語る者、強奪による利得を退ける者、手を振ってわいろを取らない者、耳を閉じて血なまぐさいことを聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者、このような人は、高い所に住み、そのとりでは岩の上の要害である。彼のパンは与えられ、その水は確保される。あなたの目は、美しい王を見、遠く広がった国を見る。」正義を行なう者と変えられます。そして、その先に美しい王、遠く広がった国を見ることができ、その信仰と希望が与えられます。

神を火として意識する

イザヤ 6 章、イザヤの召命

最後の章、火をもって来られる

聖書全体:ケルビムの炎の剣、柴の中の火、火をもってシナイ山、  
聖霊のバプテスマの火、黙示録 目が炎のようで

神が・・・である。神は愛、神は光、神は燃え尽くす火

愛には情熱の火がある。光には、火がある。

天においては清める火があり、地獄において燃え尽くす火である、神のご臨在。

火の働き、燃え尽くすが、精錬させる。

火は燃え尽くすが、金であれば純粋にさせる。恒久的なものにする。

火によって、天地が徐々に塵になっていっていく。

「耐える」住む、逃げる、戦う

自分のイエスとの関係によって、恒久的なものにするのか、燃え尽くすされるのか。

すべての業は火によって裁かれる。1コリント

キリスト者は試される。 1ペテロ 火のような試練、 精錬される

その後、15-16 節

それから、17 節 「美しい王を見る」主が守ってくださる。天において主を見ることができる。